

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 4月 15日

事業所名 通所児童支援アットファイン武蔵新城

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2	1	おもちゃで遊ぶ場所や、学習する場所はスペースを区切って活用する。	
	2	職員の配置数は適切である	8	0	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	3	2	段差がある場所を児童に注意喚起、手をつないで移動している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	1	終礼やミーティング時に職員が意見交換している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0	5		法人変更に伴い今回より実施。活動に繋げていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0	2	6		法人変更に伴い作成、4月公開。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	0	7		法人変更に伴い今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	2	オンライン研修を行っている。	オンライン研修を実施いるが、さらに回数や内容を精査し改善していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0		前法人時は、半年に1回面談を実施。面談時や送迎時の会話を元に作成。今後も継続していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	2	計画を立てる際はボーテージプログラムやABAを参考にしている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	1	職員1人1人が案を出して日々のレク内容を決定している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	0	毎月新しいレクを取り入れたり、曜日でマンネリ化しないようにしている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	1	活動時間の長さにより内容を決めている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	子どもの現状と面談を踏まえて作成している	1人行動の多い子にはゲーム等複数人で行う課題を与えたり。1人でじっくり取り組むことが苦手な子には知育プリントなどの課題を取り入れたり、苦手なことにも取り組んでもらう。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	0	朝礼を実施し、情報共有をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	0	0	終礼時に児童の行動等について振り返りをしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0	毎日児童のケース記録を残している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	2		前法人時は、半年に1回面談を実施。面談内容を踏まえ計画の見直しを行っている。
関係機関 や保護者	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7	1	0	日々様々な支援を実施している。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	0		管理者または児童発達支援管理責任者が参加する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	0	送迎時に情報共有でいている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	3		今のところ医療的ケア児の対応がないが、今後必要があれば体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4	2		3月は新規利用がいないため行われていないが、今後情報共有の体制を整える。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	4	3		今期は卒業者がいないため行われていないが、今後情報共有の体制を整える。

目 と の 連 携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	1	療育センターや児童相談所等に連絡しアドバイスをもらうこともある。	療育センターや児童相談所等に連絡しアドバイスをもらうこともあるが、機会がそれほど多くないため今後さらに連携を深めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	5	地域の公園などで会うことがある。	今後の活動の中で検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	3	5		今後の活動の中で検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0	送迎時や公式LINEなどを活用している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	3	相談を受けた際には面談などを実施している。	今後の活動の中で、保護者との懇親会等の必要性を検討してく。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	0	利用開始時、変更があった際に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1	0	ともに考え高圧的な言い方にならないように注意している。傾聴を心がけている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	7		今後の活動の中で、保護者との懇親会等の必要性を検討してく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	2	レクカレンダーを作成発行している。	レクカレンダーを作成し、毎月の療育内容を伝えている。ホームページ上にブログを作成し、日々の情報を伝えていきたい。
	35	個人情報に十分注意している	7	1	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	0	わかりやすい言葉、短文など子どもの能力に応じて使い分けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	8		今後の活動の中で検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3	1		保護者への周知が完全ではないので、面談などで御伝えしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	2	1	レクの一つとして取り組んでいる。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2	2		定期的な研修を取り入れ、実施状況を確認していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	3	1	やむを得ず行う拘束については保護者に同意を得ている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3	1	指示書などで必要なアレルギー児はいない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	1	1	内容を記録に残している。	ミーティングなどで定期的に情報共有を図る。